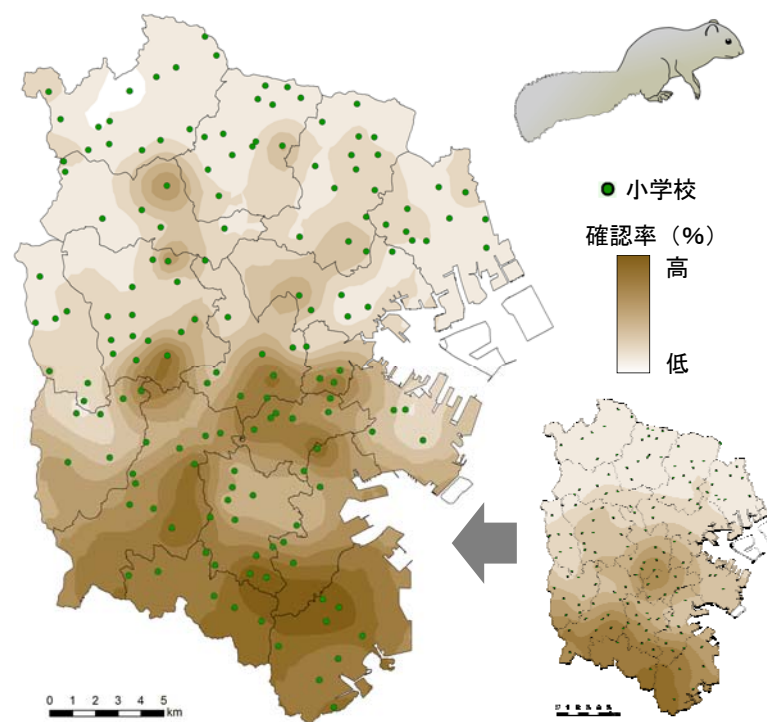
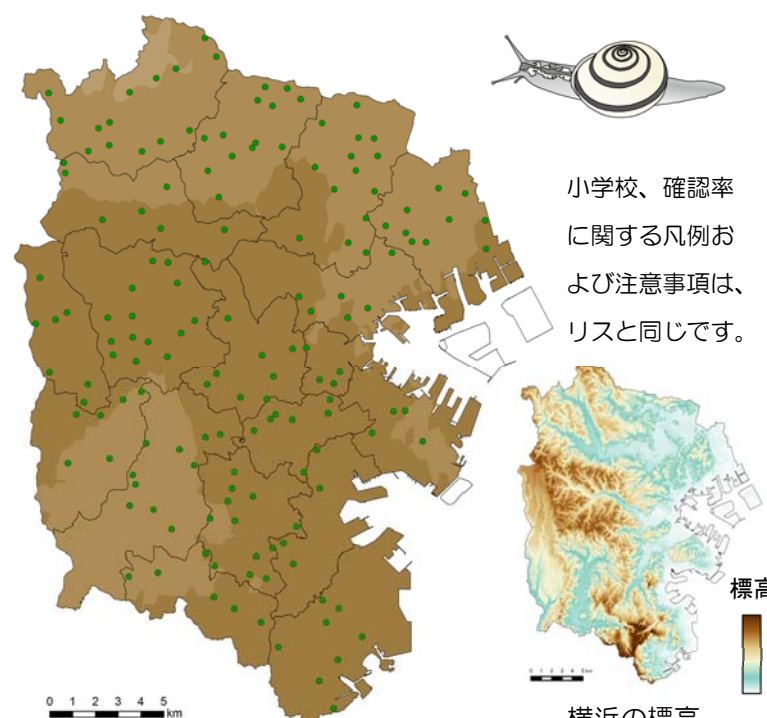




2016 年調査結果

2013 年調査結果

注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。



2016 年調査結果

(国土地理院 基盤地図情報数値標高モデルから作成)

<調査に参加いただいた小学校>

【鶴見区】末吉・市場・東台・旭・豊岡・入船・平安・寺尾・馬場・上寺尾 【神奈川区】青木・神奈川・神橋・三ツ沢・斎藤分・西寺尾第二・中丸
 【西区】戸部・一本松・稲荷台・浅間台 【中区】北方・元街・山元・本牧 【南区】太田・日枝・井土ヶ谷・永田・藤の木・永田台・六ツ川台 【港南区】永野・日下・芹が谷南・日限山・港南台第一・日野南・下野庭・相武山・港南台第二・港南台第三・丸山台 【保土ヶ谷区】今井・峯・桜台・仏向・新井・藤塚・瀬戸ヶ谷・権太坂・川島 【旭区】二俣川・白根・都岡・希望ヶ丘・鶴ヶ峰・本宿・東希望が丘・さちが丘・笹野台・中沢・上白根・南本宿・中尾・四季の森 【磯子区】浜・屏風浦・岡村・洋光台第一・洋光台第二・洋光台第三 【金沢区】六浦・八景・瀬ヶ崎・西柴・西富岡・釜利谷西・能見台・釜利谷南・能見台南 【港北区】新田・城郷・港北・綱島・菊名・篠原・下田・大曽根・日吉南・綱島東・師岡・太尾・北綱島・新吉田第二 【緑区】山下・長津田・鴨居・三保・長津田第二・森の台・霧が丘学園 【青葉区】鉄・谷本・田奈・奈良・美しが丘・青葉台・榎が丘・藤が丘・あざみ野第一・鴨志田第一・新石川・荏田西・桂・奈良の丘・黒須田 【都筑区】中川・勝田・山田・茅ヶ崎・都田西・荏田南・川和東・茅ヶ崎台・北山田・都筑・南山田・つつきの丘・東山田・茅ヶ崎東・牛久保 【戸塚区】戸塚・東戸塚・柏尾・矢部・平戸・東汲沢・鳥が丘・上矢部・品濃・秋葉・倉田 【栄区】本郷・千寿・飯島・小山台・庄戸・上郷 【泉区】中和田・東中田・新橋・いすみ野・緑園東・緑園西 【瀬谷区】瀬谷・原・上瀬谷・相沢・大門・阿久和・瀬谷さくら (全 162 校)

【リス：市全体の確認率 38%】

市内で見られるリス（クリハラリス・タイワンリスなどと呼ばれます）は、もともと横浜には生息していなかった外来種で、市南部を中心に生息しています。

学校ごとの確認率は、5～100%と地域によって大きな差がありました。3 年前の 2013 年の調査結果と比較すると、リスの確認率が高い地域が北へ拡大している様子がうかがえました。

市全体の確認率も、3 年前の 35%より 3 ポイント上昇し、統計的にも有意に増加したことが明らかになりました。

リスの分布域は変化の途上と考えられるため、今後も定期的に調査を行います。

【カタツムリ：市全体の確認率 69%】

学校ごとの確認率は 39%から 90%でした。

確認率の高い地域は市内の丘陵地の分布と一致しているようです。開けた環境に見られる種もありますが、ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイといった大型の種は移動能力も低く、環境の改変に弱いと言えます。丘陵地の分布との一致は湿度、環境の安定性といった条件を反映した結果と考えられます。

近年、姿を見ることが少なくなったとも言われるカタツムリですが、今後の減少が懸念されます。

こども「いきいき」生き物調査 2016

横浜市全域
一斉調査

調査結果について 概要版



～小学生1万人超が市内全域生き物調査に参加しました！～

横浜市環境科学研究所では、平成28年の夏休みに、市内の市立小学校342校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました（本調査は継続4年目です）。

162校、10,984名の児童から回答があり、3年ぶりに調査を行った外来種のリスの分布が市の北部へ向かって拡大している可能性があることや、最近見かけなくなったとも言われるカタツムリが、丘陵地では比較的多く確認されていることなど、生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。

ツバメの巣

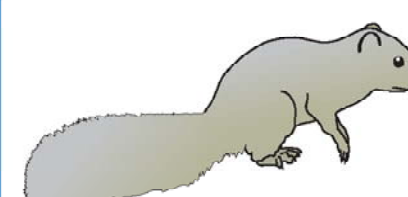


今年使われた巣を見つけた時だけ教えてね。



秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

リス



今、横浜にいるのは外国からきたタイワンリス。市内の南側に多い？

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

ハグロトンボ



黒っぽい4枚のはねをバタバタ動かしてゆっくりめに飛ぶよ。

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

ノコギリクワガタ



オスのキバ(大あご)にはギザギザがいっぱい。

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

レンゲソウ(ゲンゲ)



春、水をはる前の田んぼでさいていることが多いよ。

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

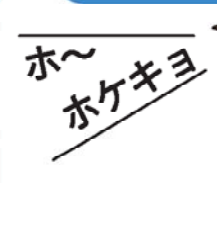
ダンゴムシ



つつくと丸くなるよ。丸くならないのは、ワラジムシ。

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

ウグイス(の鳴き声)



ホーホケキョと鳴くよ。声だけでも○をつけてね。

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

カタツムリ



カラのまき方が右まきのものと左まきのものがあるよ。

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

ナナホシテントウ



赤いせなかに黒い点が7つあるよ。アブラムシを食べるよ。

秋 冬 春 夏
☐ ☐ ☐ ☐

図 調査対象とした生き物

こども「いきいき」生き物調査 2016 教えて！あなたが見つけた生き物たち

1 目的

調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めてもらうとともに、生物多様性保全に資する基礎データ（市内広域における生物情報）を取得することを目的に実施しました。

2 調査方法

市立小学校342校の5年生29,738名（平成28年4月1日現在）及び参加希望のあった他の学年に調査票を配布し、過去1年間（2015 年9 月1 日～2016 年8 月31 日）に、「家や学校の近く」（＝学区内）で見つけたり、鳴き声を聞いたりした生き物について、○をつけてもらいました。

3 調査対象とした生き物

調査対象としたのは、次の9 種類の生き物です。生き物の分類（同定）のしやすさに配慮しながら、市内の自然環境を指標すると思われるもの、減少または増加傾向にあるものなどを選定しました。

- ・ツバメの巣
- ・リス
- ・ハグロトンボ
- ・ノコギリクワガタ
- ・レンゲソウ（ゲンゲ）
- ・ダンゴムシ
- ・ウグイス（の鳴き声）
- ・カタツムリ
- ・ナナホシテントウ

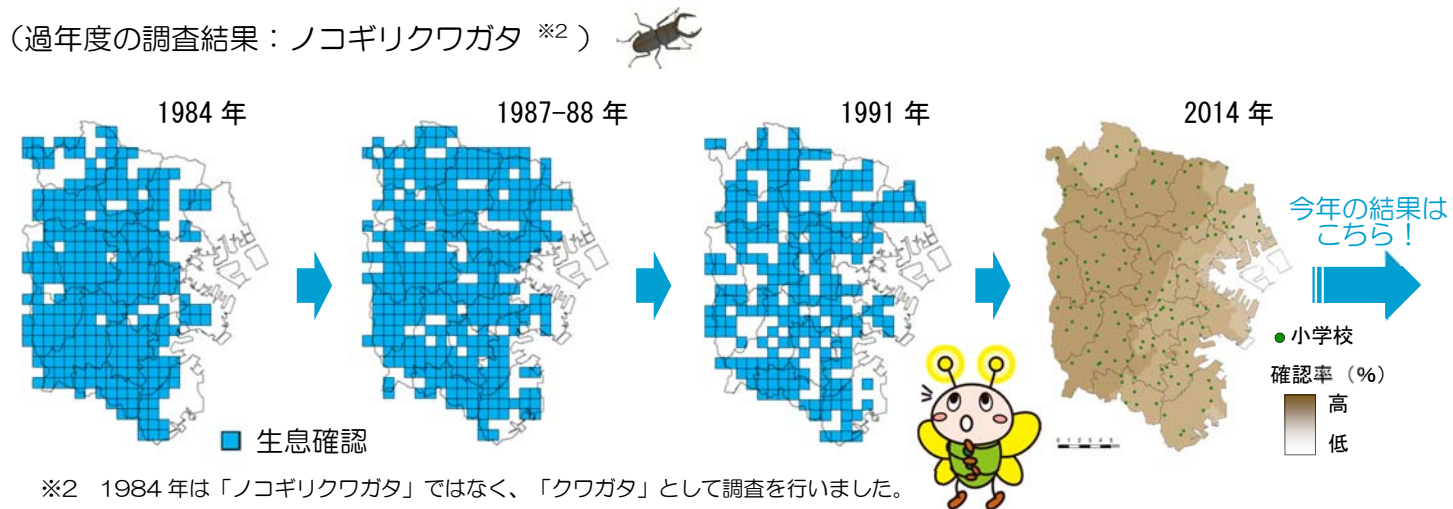
4 調査結果

学校ごとに、対象の生き物を見つけた割合（以下、確認率）を集計し、その情報をもとにGISソフトを用いて市内全域における確認率の高低を色の濃淡で示しました（3ページ及び4ページ）※1。

いくつかの生き物については、1980～90 年代に3回、小中学生らを対象としたアンケートによる分布調査が行われています。対象とする生き物が確認できたか否かを示すもので、今回の結果とは表示方法が異なりますが、当時の状況を知る貴重な資料として比較を行いました（下図）。

※1 作図にあたっては、1校あたりの回答数が10名以上の155校のデータを使用しました。

（過年度の調査結果：ノコギリクワガタ ※2）



※2 1984 年は「ノコギリクワガタ」ではなく、「クワガタ」として調査を行いました。

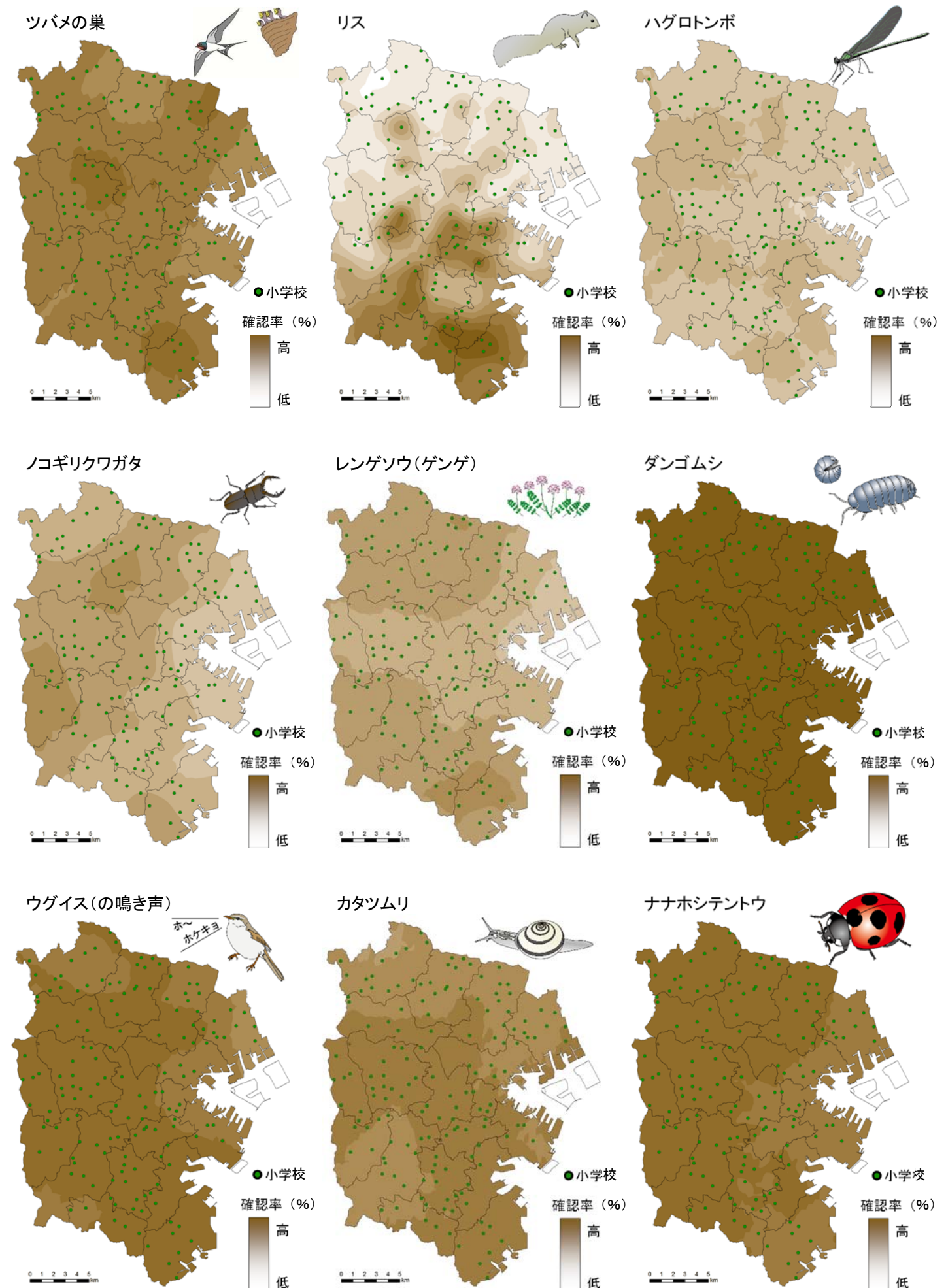
5 結果の活用と今後の計画について

結果の詳細は、横浜環境科学研究所 Web ページをご覧ください。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/data/forest/ikiiki.html>

学校ごとの確認率は観察場所へのアクセスのしやすさなど、さまざまな要因により変動し、必ずしも生き物の生息密度を表すものではありません。調査は長期的な視点での解析・考察が重要であり、来年以降も対象とする生き物の種類を変えながら継続実施する予定です。

こども「いきいき」生き物調査 2016 調査結果



注) 色の濃淡は、小学校ごとの確認率をもとに統計的に計算、作図したものです。一部のふ頭などは解析対象外としました。